

## 第380回定期発表会開催！



今年二回目の定期発表会が、10月15日こらさの交流室で開催されました。発表者29名、聴講者10名で、日ごろの練習の成果を発表しました。

漢詩（絶句、律詩）、和歌、構成吟と詠い進んだ後、最後に特別指導があり、漢詩、和歌で2名の方が横山先生の指導を受けました。その中で強調されたことは、

【漢詩】では、

- ・詩句に強弱をつけ、詩文にメリハリをつける
- ・詩文を言うとき、口を大きく開けすぎない
- ・お腹に口があると思ってお腹に力を入れる

【和歌】（「たわむれに」）では、

- ・五・七・五・七・七の区切りで言葉をまとめる
- ・節のところでは、長・短、膨らませるなどの変化をつける
- ・たわむれにと詠うときは、「た」を大事にする
- ・下る節では、小節をコロコロと転がす

などの丁寧な指導いただきました。

会場にいる皆さんも自分が指導を受けているように一緒になって学べたと思います。（広報部）

## 歴史探訪に寄せて

今年の歴史探訪のポイントは、楠木正成の人物像と三川河流域で体験する漢詩の世界と歴史観に重点を置いています。楠木正成の人物像は、徳川景山「大楠公」、頼山陽「楠公訣子」、日柳燕石「楠公を詠ず」、吉田松陰「楠公墓前の作」、河野天頼「大楠公」、本宮三香「小楠公の母を詠ず」、藤田東湖「楠公詠史」等のほか、菅茶山、菊池溪琴、坂本龍馬、山岡鉄舟等多くの人に讃えられ、尊敬され、人気の程がうかがわれます。

私たちが訪れる桜井駅跡の史跡公園では、楠公を讃える漢詩（頼山陽の「楠公訣子」）を吟じる予定です。また、「さくらいであい館展望塔」では淀川を下る船中での感懐を詠った「舟中子規を聞く」や「花朝澁江を下る」を淀川を展望しながら吟じたいと思います。漢詩の心を学ぶ歴史探訪。今年もまた楽しみましょう。



楠木 正成像

（歴史探訪係）

## 京都府詩吟連盟・ 京都府吟剣詩舞道総連盟のめいたち

その1



京都府連のマーク

「京都府詩吟連盟」が誕生したのは、昭和39年5月30日です。それまでは、西日本を代表する「愛国詩吟総連盟」の“京都地区事務局”という立場で、愛国詩吟総連盟が主催する吟士権者決定詩吟大会に参加していました。

当時、大阪府・兵庫県・奈良県の各流・各会は、各府県別にそれぞれ詩吟連盟を擁立して愛国詩吟連盟の構成員として支えておられましたが、京都は地区事務局として吟士権者決定詩吟大会に参加するのみでした。

そこで「京都でも連盟を発足させてはどうか」との進言を受けて各流派の代表者が協議した結果、『各流会派においてその吟法などに相違があるため障害もあるが、あくまでその流会派の特色を生かし、只詩吟愛好家の相互の信頼を深め、結束して、吟道精神に則り、お互いに切磋琢磨して知性を向上することが愛好家たちのためになり、京都吟詠会の恰好たる礎ができるものである』との判断で発足しました。

初代理事長は、この設立に献身的努力をされた安倍秀風氏（神心流）が就任されました。

京都府詩吟連盟規約（創立当時のもの）抜粋

- 第1条 本連盟は京都府詩吟連盟と称し、愛国詩吟総連盟の事業に協賛する
- 第2条 本連盟は吟詠詩舞により文化の向上と社会人心の道義昂揚に寄与し、吟道の普及発展と親睦を図るを目的とする
- 第3条 本連盟は第2条の目的達成のため、各種の事業を行い、また必要なる他の事業を後援することあるべし
- 第4条 本連盟は京都府内の詩吟会の加盟をもって組織する（京都府連記念誌より抜粋 広報部）

## 昇格おめでとうございます！！

9月24日の昇格審査会で、次の方々が昇格されました。おめでとうございます。さらに上を目指してお稽古に励んでください。

- 初 伝 坂本裕美子、丸田 薫
- 奥 伝 大西梅野
- 師範代 前原久子（雅号は賀秀久、がしゅうきゅう）
- 六 段 福島堂秀伶
- 上師範 辛嶋賀秀感

（事務局）

R5/11・12月の予定

- 11/ 5(日)【長岡京吟剣詩舞大会・吟士権大会】  
長岡京市中央公民館 市民ホール
- 11/26(日)【京都府詩吟連盟・吟剣詩舞総連盟主催  
吟詠・剣詩舞道祭】  
宇治市文化センター
- 12/17(日)【近畿少壮吟士吟詠チャリティサイトル】  
尼崎 アルカニック オクトホール
- 12/25(月)【長岡天満宮正式参拝】

令和6年度のコンクール予定

- 4/14(日)【全国吟詠コンクール京都府大会】  
ラポール京都
- 6/ 9(日)【府連 一部・シニア・ジュニア】  
ラポール京都
- 7/14(日)【府連二部(指導者級)】  
ラポール京都
- 5/19(日)【京都府吟剣詩舞コンクール】  
京都教育文化センター

吟道賀堂流創流90周年記念大会について

昭和9年(1934年)11月、初代宗家による「姫路朗吟奨励会」が結成されてから来年『吟道賀堂流』は創流90年の節目を迎えます。これを記念して、「吟道賀堂流創流90周年記念大会」の開催が実行委員会を中心に計画されています。現時点で決まりました内容と、皆さんにご協力をお願いしたい内容をお知らせします。大会当日は、みなさんぜひご参加ください。

1. 大会開催概要

- (1)開催日時： 令和6年12月1日(日)(予定)  
9時30分～16時
- (2)開催場所： アクリエひめじ(JR 姫路駅徒歩10分)  
大ホール及び展示室
- (3)タイトル： 吟道賀堂流創流90周年記念大会

2. 大会内容

- (1)記念大会(大ホール) 9:30～12:30
  - ・式典
  - ・企画構成吟(「賀堂流創流90年の流れ」(仮題))
  - ・大合吟
- (2)祝賀懇親会(展示室) 13:30～16:00
  - ・開会セレモニー
  - ・懇親会(含む余興)

3. 協力依頼事項

- (1)サブタイトル提案のお願い  
「○○○○○ 吟道賀堂流創流90周年記念大会」  
(15文字以内)
- (2)協力金のお願い  
全会員対象(少年会員は除く)  
一人 2,000円 (広報部)

シリーズ【詩吟と空手】 最終話 尻枝賀秀道

今まで賀堂流京都本部長岡京吟詠会の吟剣詩舞大会で、4～5回演武に出させていただきました。添え吟(吟士)の方と息が合わないと空手の演武もうまいかないと痛感したものです。また、舞台の上でのことですから身体が緊張して、詩吟の伴奏曲もうまく間が取れなくて身体がぐらついたのを覚えています。3回目ぐらいからリラックスして無心になり呼吸を整えて演武をしたら観客の顔が見えなくなり、吟士の声もよく聞こえ、演武に集中できたのを覚えています。詩吟もコンクール・発表会などで吟じるときは、

- ①リラックス
  - ②呼吸を整える(腹筋を使う)
  - ③目線はまっすぐ遠くを見つめる
- 以上のことを念頭に置いて練習されてはいかがでしょうか

私と詩吟の出会い 高橋賀秀晶

平成元年、故加地フジ子さんに誘われて「たちばな詩吟クラブ」に入れていただきました。音痴の私は、「声が出ません」「息が続きません」とすぐに吟を中断するわがままな弟子でした。優しい八木先生の下で長らく気楽な詩吟が続きましたが、令和3年に名ばかりだった「たちばな3」の活動を開始してからは、指導するという責任が発生しました。説明をしようと思っても判らないことばかりですぐに横山先生を頼っています。即答してくださる先生の知識と経験には感服と同時に憧れます。楽しいことばかりの詩吟ではありませんが、今では生活の一部になっています。緩やかながらも上達を目指して練習を重ねてゆく所存です。

ほっと一息、休憩タイム



カニみその「みそ」は、  
カニの脳みそではありません！

これから鍋の季節。カニ鍋のカニのみそはうまいですね。でも、カニの「みそ」の正体は、カニの脳みそではありません。カニの肝臓とすい臓です。肝臓だから、いわばカニのレバーです。グリコーゲンなどの栄養分を蓄えているのであのうまみが出ているのです。カニのみそを食べて、栄養を取りましょう。みそと呼ばれるのは、みその形状に似ているからだと言われています。「カニみそ」というとカニの脳みそを想像していましたが、カニの脳みそはととても小さいのだそうです。あの濃厚な味は、肝臓の部分だから…。まさにカニのフォアグラなのですね。  
(【話のネタ】本から)



『ぎんまい長岡京』 編集室  
編集委員長 尻枝賀秀道  
編集委員 市丸、櫻澤、後藤、宮小路  
※連絡・問合せ先 尻枝賀秀道  
Tel: 075-954-9092